



第8回 福智町

水と灯火の夕べ

福智の空に夢の華咲き、夏の終わりをまばゆく照らす



日時 **8月31日(土) 19時開会**

会場 **彦山川・中元寺川合流点河川敷**

◎ 打ち上げ花火 800発予定 20時30分～

◎ 荒天時中止 (雨天時や強風時)

問 福智町役場 総務課 庶務係 ☎22-0555

主催 福智町・水と灯火の夕べ実行委員会 共催 福智町社会福祉協議会

町長日誌

田川市が毎年実施している「ゆめっせフェスタ2013」が、6月15日に行われた。人権や福祉・

教育の視点も取り入れて、男女共同参画社会の早期実現を目指しているイベントである。▼今回の講師は、作家としての鋭い感性で女性問題や人権問題などを中心に、積極的な活動を展開している落合恵子さんであった。昭和20年生まれの彼女は、私たち団塊世代と年齢もそんなに変わらず、およそ1時間30分の講演が抵抗なく耳に入ってきて、ある種の心地よさを感じることができた。これは、同時代を過ごしてきた者同士が、考え方や信条を超越した一種の社会的空気を共有していることによるものかも知れない。▼そんな風に思いを巡らせながら、いつの間にか、彼女がマスコミに登場した頃にタイムスリップしていたのである。雑誌への露出度も高く、ラジオのディスクジョッキーを務めるなど、世間の耳目を集める存在になるのに、さほど時間を要さなかったと記憶している。また、「レモンちゃん」の愛称で呼ばれ、今どきのアイドルなみの人気者であったのは、間違いのないところである。▼少し前置きが長くなったが、講演の中で共感する部分があったので書いてみたい。子どもの健全な成長を願う大人なら共通の認識だと理解しているが、第二次世界大戦で父親となるべき人失って、母子家庭で育った彼女の言となれば、違った意味で重みを増すのではないだろうか。いわく、「子どもの時に、どんな大人がまわりにいるのかで、人格形成に差異が生じる」と。まさに、次代を担う子どもたちのために、私たちは責任の重大さを自覚しなければならない。

浦田 弘二